

火葬場設置における合意形成成功事例からみる計画的要件に関する研究

日大生産工(院) ○平松 凌太郎 日大生産工 古田 莉香子
日大生産工 広田 直行

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

日本の人口動態について見ると死亡人口は年々増加し、さらに急速な高齢化により多死社会を迎え、2040年にピークを迎えるとされている。それに伴い火葬場などの葬祭施設の需要は今まで以上に高まっていくと考えられる。特に都市部では死亡者数の増加に対応するため、火葬場の新設や拡張が求められているが、火葬場設置に関しては、合意形成の難航によりそれらは難しいとされている。火葬場は迷惑施設として扱われ、それにより生じる「NIMBY 問題^{注1)}」が原因だと考えられる。そのため、計画段階での合意形成が重要であり、地域社会との協調や説明責任が必要とされる。近年、行政や企業は住民との対話を重視し、透明な計画プロセスや環境対策を示すことで合意形成に成功している事例も見られる。これらの成功事例をもとに、計画的要件を明確にすることが今後の火葬場設置において重要である。

そこで本研究では、過去の成功事例を分析し、どのようなプロセスや対策が合意形成に貢献したのかを示すことで、今後の火葬場設置計画における指針の一助となることを目的とする。

1-2. NIMBY 問題の現状と課題

「NIMBY 問題」とは、公共的な施設やインフラの必要性を認識しながらも、自らの生活圏内への設置を強く反対する住民運動を指す。火葬場や廃棄物処理施設、発電所などが典型的な例としてあげられる。この反対運動により火葬場の建設や運営計画は住民との合意形成が難航し、計画段階で十分な時間を要する。そのため、住民との対話や計画の透明性、環境対策やデザインの工夫によって負の影響を最小限に抑えることが必要である。これにより地域住民との共存が可能となり、火葬場が単なるインフラではなく、地域の公共空間としての新たな価値の創出を目指すことが「NIMBY 問題」の課題であり、負のイメージを払拭することがこれから求められる。

1-3. 対象施設と研究の方法

対象施設の選定として、過去 10 年間に竣工した火葬場を取り上げる。その施設を用途地域、施設実態、周辺環境から分類を行い、対象を絞る。分類の結果を以下、表 1、表 2 に示す。

以上の選定方法から本稿では、合意形成成功事例として、埼玉県川口市めぐりの森斎場（以下「めぐりの森」とする）を研究の対象とする。

調査方法は、建設当時の担当者とおおよび施設・周辺環境の調査、川口市計画審議会の議事録、建設プロセスに関する資料、及び合意条件・市民の要望に関する資料を収集、分析を行う。

2. 対象施設選定方法

2-1. 過去 10 年間で竣工した火葬場

過去 10 年間で竣工した火葬場を取り上げる。また火葬場として大きな影響を与えた代表作品として前川國男作品「弘前市斎場」榎文彦作品「風の丘斎場」も対象施設選定の候補として取り上げる。結果 44 施設があげられる。

表 1 住宅地帯火葬場施設の概要

竣工年	名称	場所	郊外	産業地帯	住宅地帯
1983	弘前斎場	青森県弘前市			○
1996	風の丘斎場	大分県中津市			○
2014	南部広域圏南斎場豊見城市豊見城	沖縄県豊見城市			○
	燕・弥彦総合事務組合斎場	新潟県燕市		○	
	大峰斎場	長野県長野市	○		
2015	名古屋市立第2斎場	愛知県名古屋			○
	下伊那北部火葬場「五稜の森」	長野県下伊那郡	○		
	にしわが斎苑	岩手県和賀郡	○		
	魚沼市斎場	新潟県魚沼市	○		
	松代斎場	長野県長野市	○		
	湖南市浄苑	滋賀県湖南市	○		
2016	岡崎市斎場	愛知県岡崎市	○		
	多治見市新火葬場「蒼立やすらぎの杜」	岐阜県多治見市	○		
	美馬西部共生火葬場	徳島県美馬郡		○	
	高崎市斎場	群馬県高崎市	○		
	土浦市斎場	茨城県土浦市		○	
	はさき火葬場	茨城県神埼市		○	
	市営斎場金剛霊殿	大阪府長野市	○		
	小松市立葬祭場	石川県小松市		○	
2017	四ツ木斎場	東京都葛飾区	○	○	
	越生斎場	埼玉県入間郡	○		
	いわき市勿来火葬場	福島県いわき市	○	○	
	長岡市柳屋斎場	新潟県長岡市	○		○
	嘉麻斎場	福岡県嘉麻市	○		
2018	三豊北部火葬場 七宝苑	香川県三豊市	○		
	めぐりの森	埼玉県川口市			○
	東松島市火葬場	宮城県東松島市	○		
	秦野斎場	神奈川県秦野市		○	○
	柴田斎苑	宮城県柴田郡	○		
2019	泉南・阪南共立火葬場	大阪府泉南市	○		
	小田原市斎場	神奈川県小田原市	○		
	可茂斎苑	岐阜県可茂市	○		
2020	志太広域事務組合斎場会館 星山の苑	静岡県焼津市	○	○	
2021	岡山北斎場「星空の郷」	岡山県岡山市	○		
	豊橋市斎場	愛知県豊橋市			○
	伊豆の国市斎場 柳の杜	静岡県伊豆の国市	○		
	富山市斎場	富山県富山市	○	○	
	こもれび苑	滋賀県長浜市	○		
2022	きみさらず聖苑 知多南部斎場	愛知県知多郡	○		
	広域葬祭センター願文院	新潟県新潟市	○		
	奈良市斎苑旅たちの杜	奈良県奈良市	○		
2023	竹藤葬祭公園新火葬場	佐賀県武雄市	○		
	長瀬斎場	大阪府東大阪市			○
	南あわじ市斎苑桜花の郷	兵庫県南あわじ市	○		

A Study on Planning Requirements from the Case of Successful Consensus Building in the Establishment of Crematoriums
Ryotaro HIRAMATSU, Rikako FURUTA and Naoyuki HIROTA

2-2. 取り上げた火葬場からみる傾向

あげられた 44 施設から火葬場の立地環境における傾向を郊外区域・産業区域・住宅区域の 3 つに分類し（表 1）、分析する。郊外区域に建設された火葬場は 30 施設、産業区域は 10 施設、住宅区域は 10 施設である。この結果から郊外区域に火葬場は多く設置されていることがわかる。つまり火葬場設置における住民の合意と同意が円滑に進まず、人口が密集する区域から遠ざけるように設置されていると言える。

しかし、住宅区域に設置された火葬場は周辺に住宅地が広がり、住民は火葬場の近くで生活することに心理的抵抗を感じやすいため、郊外・産業に比べ合意形成が難しいと考えられる。

よって本稿では住宅地域に設置された火葬場を研究対象として扱う。

2-3. 「めぐりの森」選定理由

選定基準を明確化するために項目を設定し、住宅地域 10 施設の比較を行う。（表 2）周辺の環境を比較の項目とする。

まず、周辺に住民の日常的利用が考えられる施設がある火葬場は「第 2 斎場」「めぐりの森」

「泰野斎場」の 3 施設である。この 3 施設は他の施設に比べ、住民の生活に近い場所に設置されていることから住民の心理的抵抗が生まれやすいと考えられる。その中でも「めぐりの森」は一体化した公園や緑地の設置、パーキングエリアなどのインフラの併設など、住民に開かれた火葬場施設である。「泰野斎場」に関して、背後には工業施設が並び、住宅地は川を隔てて広がり、住民との距離が見られる。「第 2 斎場」に関しても住宅地までの距離が遠く、街の中心地からも離れた場所に設置されている。

このように、「めぐりの森」は周辺環境や地域住民との調整が求められる複雑な状況下に位置しており、合意形成の計画要件を導くにあたり適した研究対象であると言えるため、本研究における対象事例は「めぐりの森」とする。

3. 合意形成のプロセスと実践手法

3-1. 「めぐりの森」の施設概要

「めぐりの森」は市営火葬施設と約 9ha の公園とが一体化となった開発である。敷地内には火葬施設のほか、歴史自然資料館や地域物産館も併設され、これらの施設が公園の自然環境と調和するように配置されている。特に、台地と低地が複雑に入り組んだ谷戸地形を活かし、公園を散策する際には、それぞれの施設が植生や地形に溶け込み、見え隠れする景観が意図的に設計されている。

火葬施設の 2 階建て高さ 13m になる火葬炉建屋は、低く自由な曲線を描く屋根によって周囲と調和させ、池の上に低く浮かぶ丘のように設計されている。建物の周囲には植栽が施され、柱の上部にも緑が配されており、公園の植生と一体となった連続的な景観が形成されている。

これにより、自然と建築が融合した調和の取れた空間が創出された火葬場と言える。

3-2. 「めぐりの森」建設計画の流れ

「めぐりの森」建設計画の実際の流れについて、図 1 に示す。

施設の整備および運用開始までの経緯は、段階的な計画と各種会議での調整が行われる。計画の中で開催された委員会と説明会は、全 5 回の公園検討委員会、全 7 回の地元説明会や全 11 回の火葬場検討委員会である。これらでは、火葬施設の設置に関する基本的な方向性や住民意見の反映が行われる。火葬場建設に関する都市決定が行われたのは、プロジェクトチームが設置された平成 22 年から 2 年後の平成 24 年である。その後平成 24 年から 26 年の 3 年の期間を要し、用地取得が行われる。これらを通した建設計画が平成 28 年までの 7 年間で行われる。

本稿では「赤山歴史自然公園等検討委員会」「都市計画に関する地元説明会」「火葬場設置における庁内検討委員会」に着目し、合意形成の計画的要件に関する分析を行う。

表 2 住宅地帯火葬場施設の概要

	弘前市斎場	風の丘斎場	南斎場	第 2 斎場	四ツ木斎場	新尾斎場	めぐりの森	泰野斎場	豊橋市斎場	長瀬斎場
都道府県	青森県	大分県	沖縄県	愛知県	東京都	新潟県	埼玉県	神奈川県	愛知県	大阪府
竣工年月日	1983 年	1996 年	2014 年	2015 年	2017 年	2017 年	2018 年	2018 年	2021 年	2023 年
立案から完成まで	不明	11 年	5 年	11 年	建て替え	5 年	8 年	増築・改修	6 年	建て替え
設置区分	市町村単体	市町村単体	指定管理者制度	市町村単体	指定管理者	市町村単体	指定管理者制度	市町村単体	市町村単体	指定管理者制度
人口密度（人/km ² ）	368	176	3,160	7,139	12,800	287	9,588	1,548	1,403	7,853
敷地面積（㎡）	27,752	33,316	13,042	50,965	10,015	20,000	19,800	5,427	8,536	288
建築面積（㎡）	941	2,515	2,710	10,486	5,149	1,074	5,493	2,447	2,408	不明
延床面積（㎡）	1,629	2,259	2,899	14,993	15,770	1,800	7,761	3,040	4,404	479
火葬炉数	6	6	6	30	12	3	10	7	12	4
周辺用途地域	非線引き区域	非線引き区域	非線引き区域	第二種住居地域	工業地域	非線引き区域	市街化調整区域	工業地域	市街化調整区域	市街化区域
隣接建物	無	現場事務所	無	商業施設	老人ホーム	無	PA・幼稚園	出荷工場	無	無
周辺環境	住宅、農園	住宅、遺跡	住宅、軍隊、城	公園、商業施設	住宅、老人ホーム	住宅、森林	住宅、公園、PA	公園、商業施設	住宅、畑	霊園、老人ホーム
道路を隔てた建物	無	住宅	無	無	住宅地	無	住宅地	工場	住宅地	住宅

※各自治体、各施設のホームページを参照する。

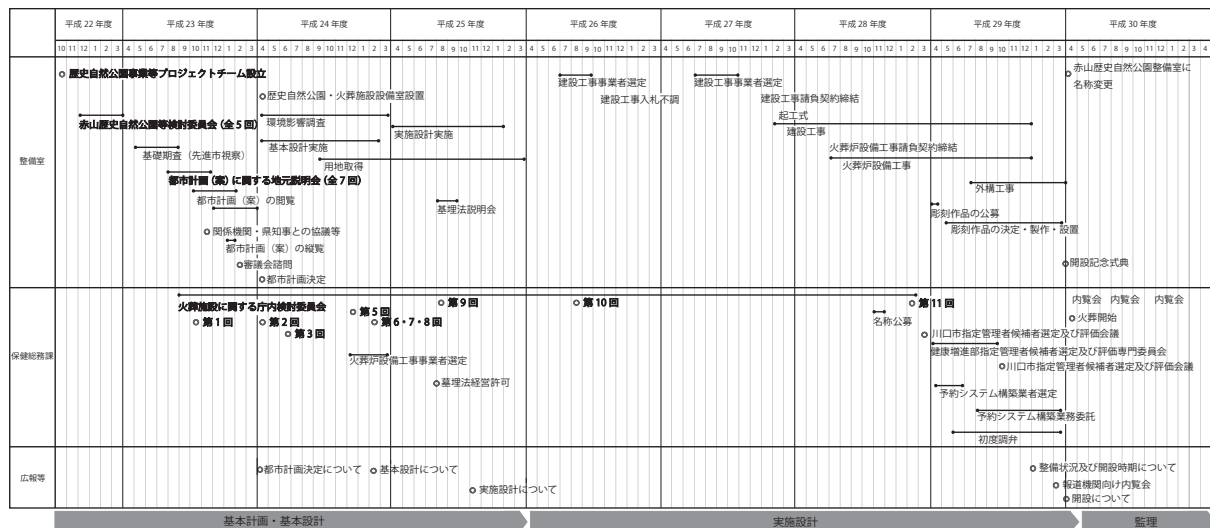


図 1. 川口市めぐりの森設備・併用開始までの経緯

4. 資料分析に基づく計画的要件の分析

川口市役所から提供された議事録や合意形成に関する資料を基に、どのような要素が合意形成の成功に寄与したのか分析を行う。

4-1. 火葬場建設の立案

立案理由は、人口増加と火葬場の無設置である。川口市は埼玉県の中で中核市に位置し、年々人口が増えている現状ではあるが、計画が始まる平成 22 年時点では川口市に火葬場は設置されていない。その現状を住民が問題提起し、新しい火葬場の設置要望が多く出されたことで、平成 22 年にプロジェクトチームが設置され、火葬場計画が始まる。

4-2. 用地の選定

火葬場建設の敷地選定にあたり、ほとんどのケースで住民の反対が起こり、交渉に慎重さが求められるため、比較的水面下で進められることが多く見られる。そのため、計画の具体化まで公表されないケースが多く、選定過程が不透明だという批判も多い。川口市では用地選定にあたって、市民の意向や協議を重視し、火葬場計画にあたって、最適な用地を決めるため、基本計画の段階から市民参加のもと行われる。

施設整備を行うにあたり公園と一体化した火葬場の計画のため、広大な敷地が必要となる。広大な敷地が見つからず、4 年間の調査・話し合いの末、神根赤山地区の市街化調整区域内に公園を設備することが決まる。その後、平成 22 年 12 月に第 1 回検討委員会が立ち上がり、県と住民との協議の末、公園と一体化した火葬場設備を住宅地に建設するという都市計画決定が行われる。

4-3. 計画発表と住民の反応

施設計画は自治体からの計画発表、協力の要請などが各会議や検討委員会などを通して伝えられる。火葬場設置に関しては、火葬場建設要望が住民であることから、組織化された反対運動は発生していないが、周辺住民の多少の反対意見は避けられない。目立つ反対意見は「火葬場を設置せずに公園だけの整備でいいのでは」という意見である。他にも「心理的なもの（霊柩車を見なければいけない、公道からの入り口、公園利用時の遺族の姿等）」「火葬場や地域のイメージ問題、地下の下落」「環境問題への影響」などがあげられる。

4-4. 市民の要望への計画対応

敷地選定に関する対策として、川口市役所保健総務課は「公園と一体化した計画を進めるにあたりこの場所が適地である」と説明を行う。その説明内容として、計画テーマを「水と緑のオアシス空間」と設定し、湖や公園を整備することで環境や周辺景観に配慮した計画にすること、また市外の人に川口市を知ってもらい訪れてもらうため、公園と PA を含めた集客要素を組み込むことを住民に説明し、理解を求めたことで合意を得る。

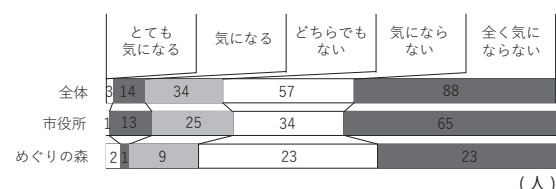
他にも入り口を県道から一箇所のみの限定や宮型霊柩車の乗り入れ禁止、昔ながらの火葬場が持つ怖いというイメージを取り除くために、火葬場であることを感じさせない独自のデザインにより、地域の景観や住民のイメージ問題への対策を行う。喪服を着た人が集まる機会を減らすために、火葬場のみを設置する対応を行う。

4-5. 完成後の住民の反応

完成後の周辺住民に対して、川口市役所及びめぐりの森にて2日間のアンケート調査とヒアリング調査を行う。

アンケート調査の結果を図2に示す。「現在施設の存在は気になりますか」という質問に対し「全く気にならない・気にならない」と答えた人は全体で73%であり、「めぐりの森を日頃から利用しますか」という質問に対して「よく利用する・たまに利用する」と答えた人は全体で79%である。上記の住民からは「こんなにいい火葬場になると思っていなかった」「怖い場所というイメージが消えた」「火葬場と思わせないデザインと自然の豊かさがとてもいいと思う」「この環境で最後を迎えられるのは幸せです」などの意見が出される。

現在、施設の存在は気になりますか。



めぐりの森を日頃からよく利用しますか。

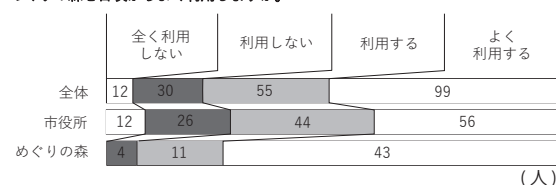


図2 施設完成後の住民の意識

5. 本研究の総括

①. 早期の情報提供と住民参加

住民参加型の早期かつ的確な情報提供は、火葬場建設に対する住民の懸念に対応するために重要な要素である。情報提供と住民参加の機会を増やし、住民の意見を反映した計画を進めることで住民の不安は解消され、地域と住民に寄り添った火葬の建設が可能となる。「めぐりの森」ではこれらを行った結果、反対意見が少なく、周辺住民からの賛成意見が出る。

②. デザインにおける配慮

悪いイメージが定着した火葬場において、建築デザインやランドスケープが地域の景観と調和により存在感を和らげることは、完成後も住民が心理的影響を感じないために重要である。「めぐりの森」では自然と建築が一体となった景観であることが、住民の火葬場に対するイメージの向上に強くつながっていると考えられる。

③. 環境との調和

火葬場を単独で設置する場合、住民からの景観や環境への不満が高まりやすい。公園や緑地、水などの公共空間と一緒に整備することで、地域住民が日常的に利用できる環境を提供し、火葬場の存在が目立ちにくくなり、心理的影響も和らぐなどの効果が期待できる。「めぐりの森」では公園と一体化した整備により日常的な利用が目立ち、火葬場に対するイメージの低下にもつながる。他にもPAというインフラ設備を併設し、市外からも集客することで、地域の公共空間として火葬場に新たな価値が生まれる。

6. まとめ

これから増加すると考えられる死亡者への対策として火葬場の設置が強く求められる現代で、火葬場がいかんして迷惑施設ではなくなり、どのように合意形成を成すべきかを明確にすることが今後の課題となる。その中で、「川口市めぐりの森斎場」は、火葬場と公園を一体化させることで、地域住民の抵抗感が緩和され、合意形成が円滑に進んでいる。公園という日常的な空間と火葬場を組み合わせることで、火葬場単体に対する負のイメージが軽減され、利用者にとって親しみやすく、地域コミュニティに溶け込む施設となる。さらに、公園との一体化により景観に対する配慮も実現され、火葬場が環境に与える影響を抑制し、住民の心理的な安心感を向上させる効果も見られる。

迷惑施設として敬遠される火葬場の一つの可能性として、公園と一体化した火葬場の設備が、火葬場が持つ現状問題の解決に寄与する施設のあり方の1つであると考えられる。

【注】

注1) NIMBY 問題とは社会的に必要だが近くにあると不利益や不快感を感じる施設に対して、自分の家の近くにあることを理由に反対する住民の問題である。

【参考文献】

- 参1) 松村真人, 八木澤壮一, 吉本正信:「都市計画決定からみた火葬場建設と住民の反応」日本都市計画学会学術研究論文集 1989 年
- 参2) 田村久子, 八木澤壮一, 武田至:「既成市街地にみる火葬場建設の合意形成プロセスの留意点について」日本建築学会大会学術講演概要集(東北) 2000 年 9 月
- 参3) 木下雅博, 八木澤壮一, 武田至, 小林拓人, 岡村久子:「首都圏における営火葬場の建設に関わる合意形成について」日本建築学会大会学術講演概要(東北) 2001 年 9 月
- 参4) 武田至, 中山悦己, 山崎栄作, 八木澤壮一:「市民が用地選定から火葬場計画まで関わった市民参加による火葬場建設について-広島県三次市「悠久の森」の火葬場建設事例を元に-」地域施設計画研究論文 日本建築学会 2013 年 7 月
- 参5) 稲葉清志, 久保田裕基, 筒井光洋, 稲田俊:「迷惑施設受け入れに関する研究」ISF 日本政策学生会議 2015 年 12 月
- 参6) 武田至, 中野裕正, 戸塚千尋, 田中広:「地域の葬送習慣を活かした地域性が感じられる火葬場計画 日本初の「お別れメゾット」の実施-広静苑組合 越生斎場-」地域施設計画研究論文 日本建築学会 2020 年 7 月
- 参7) 新建築「川口市めぐりの森赤山歴史公園, 歴史自然資料館・地域物産館」2018 年
- 参8) 川口市役所「めぐりの森建設スケジュール・公園等検討委員会の資料及び会議録」